

# DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2000.7.10 No.33

編集・発行 大同工業大学社会交流センター

〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3

TEL 052-612-6193

## No.33



大同校舎(画/堀井憲爾)

## CONTENTS

### 特集「DITがかわる」学科と教育 大学祭「第35回宴祭」

#### 研究室を訪ねて

応用電子工学科 岩間三郎教授

#### TOPICS

理事長就任にあたって

田中 卓理事長

退任のご挨拶

横井信司前理事長

科学研究費補助金決まる

#### 国際交流

オレゴン州立大学滞在記

土木工学専攻 大東憲二助教授

米韓両国訪問記

小野二郎常務理事

#### アンテナ

国際学会に参加して

97D新藤雅子さん

新刊著書を読む

#### ゴビエの散歩道

「スウェーデンと私」

一般教養 渡辺博明講師

#### キャンパスライフ

ハンドボール部、東海学生春季リーグにデビュー

クラブ活動報告

クラブ紹介 「硬式野球部」

#### INFORMATION

季刊  
大同工大キャンパス  
DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY  
夏季号 2000  
JULY 7



来春は新世紀のスタート。本学はキャンパスがその姿を変えますが、それに合わせるようにして、教育も大きく変わります。新しい1年生から学科の編成を大幅に変える計画を現在文部省に申請中で、まもなく認可になる見込みです。同時に教育の方法でも「キャップ制」の導入など、大きな変化があります。一足早く、新しいDITの教育の概要を皆さんに紹介します。

## まず新しい学科編成について紹介します。

表でわかるとおり現在の4学科が6学科に増え、情報系が強化されます。機械工学科は継続しますが、新たに情報機械システム工学科が新設されます。電気・電子系の学科は再編成され、電気電子工学科と電子情報工学科になります。建設工学科は従来の建築学と土木工学の専攻が学科として独立し、建築学科と都市環境デザイン学科になります。

なお新しい学科編成は来春の入学者からですので、現在の学生の皆さんは今の学科と変わりません。

### (現在)

機械工学科

電気工学科

応用電子工学科

建設工学科建築学専攻

建設工学科土木工学専攻

### (来年度)

機械工学科

情報機械システム工学科(新学科)

電気電子工学科(学科の改組)

電子情報工学科(学科の改組)

建築学科(学科の改組)

都市環境デザイン学科

(注)学科の改組とは、学科の内容を変更することです。

## それぞれの学科を簡単に紹介しましょう。

各学科とも、専門基幹科目の上に専門科目を修得します。専門科目は進路に合わせたコースに分かれて学びますが、この「コース」は履修モデル的な性格のもので、他コースの授業科目も自由に履修することができます。

### 1. 機械工学科

～機械設計・開発の専門家を養成～

新しい機械工学科は、従来の機械工学に加えて環境技術を複合した分野への理解を深め、環境に優しい機械の生産、材料プロセスの創造、さらにエネルギーの枯渇化・CO<sub>2</sub>の削減などの諸課題に対応できる実践的・創造的な専門技術者の養成を目指します。授業科目には、「循環型プロセス設計」「環境材料強度学」「環境流体システム」「環境エンジン工学」

などが開設されます。

### 2. 情報機械システム工学科

～ロボットやメカトロニクスの専門技術者を養成～

現代の機械・生産システムで必要とされる電気電子回路や材料、機械設計等の知識を基礎から学ぶと共に、コンピュータを高度に駆使できる人材を育成します。CAD設計や創造製作実習、プログラミングなど、豊富な実験・実習・演習科目をふんだんに取り入れ、誰もが無理なく基礎を身体で学び取れる実践的な教育を行います。

知能機械システムコース

コンピュータ援用工学コース

機械システム設計コース

### 3. 電気電子工学科

～電気電子システムの専門家を育成～

増加する電気電子技術者へのニーズに応えるため、基本から専門まで無理なく学べるカリキュラムを用意します。特に数学、電子の基礎、電気磁気学や電気回路理論など必須の基礎技術を身につけます。専門ではコンピュータ操作に習熟した技術者を育成します。

エネルギーコース

エレクトロニクスコース

### 4. 電子情報工学科

～ハード・ソフトの両面から情報工学の専門家を育成～

情報・制御の基礎理論の学習に重点をおき、電子工学も学習し、ソフトウェアとハードウェアの両方に強い技術者の育成をします。コンピュータ利用の実験や演習を通じて、ソフトウェア、ネットワーク、マルチメディア、コンピュータ制御などを学習し、情報理論も学びます。実験主体の教育により、企業・社会の要求に応じる実践的技術者になれます。

情報コース

システム制御コース

# と共にDITが変わる ～学科と教育がこう変わります～

## 5. 建築学科

～新世紀の生活空間を創る専門家を養成～

住宅、学校、超高層ビル、工場など、多様な構造物を「安全で使いやすく、また美しく快適」な建築として完成させる技術者を養成します。環境問題や情報化、国際化、バリアフリー化、心の時代への移行など、多様な社会の要請に応えられる技術者を目指します。

デザインコース

エンジニアリングコース

## 6. 都市環境デザイン学科

～自然と共生する都市環境をつくる力を基礎から育成～

道路、鉄道、橋、港湾、河川や上下水道などの社会基盤施設、さらには地震・津波・洪水などに対する防災施設など、現代社会に欠かせない都市環境づくりの知識・技術を学びます。計画から施工、維持管理までの各ステージで環境問題に積極的に取り組み、開発と環境保全という相反するテーマを高い次元で満足できるような人材を育成します。

社会基盤デザインコース

都市・環境システムコース

デザインマネジメントコース

路に応じたコースに従い専門教育を学びます。「コース」といってもガチガチの制度でなく、むしろ履修モデル的なもので、各人それぞれのニーズにより他のコースのものも履修できる柔軟なものになっています。

## 2. じっくり型のキャップ制

～限られた数の科目をしっかりと履修

どの大学でも、とにかく単位をとればいいという考えで、しっかりした自習が不可能なほど多くの科目を履修したり、また単位の取りやすい科目を選んだりする学生が少なくありません。しかし、これでは折角取った単位も中身の薄いものでしかありません。

キャップ制の導入により、学生は1学期の履修登録単位を20単位に制限されます。その代わりに、予習・復習をしっかりし、単位にふさわしい学力を身につけることを求められます。

(注)「キャップ」とは帽子の「cap」です。

## 3. フレキシブルな昼夜開講制

本学は3年前に、工科系私立大学として全国で2番目に昼夜開講制を導入しましたが、昼間主コースと夜間主コースの学生が相互に他のコースの授業を履修する上で制限がありました。来年度からはフレックスコースが開設され、まったく同じ内容・条件の授業が開講される上、履修の制限が一切なくなります。学生がそれぞれの都合に合わせて昼夜の授業をフレキシブルに履修することができるようになります。

さらに新たに、仕事をしながら大学で学びたい社会人のために、6・7限目と土曜日だけの授業による社会人コースが開設されます。

来年からの教育は、ここが変わる。

## 1. 進路にあわせたコース制

前述のように新しい学科体制では、各学科ともに学習内容と将来の進路を明確に結びつけたコース制を導入します。2年次までは徹底的な基礎教育を行い、後半ではそれぞれの進

## 学長、 宇宙材料フォーラムの 代表に選任される

わが国の宇宙と材料に関心を持つ研究者、技術者による「宇宙材料フォーラム」の設立総会が、5月15日に茨城県つくば市のつくば宇宙センターで開かれ、代表に本学の澤岡学長が選任されました。

同フォーラムは、国際宇宙ステーションを利用した材料の技術開発へ

の対応を視野に入れ、近未来の材料技術開発の動向を先取りしながら、応用と実用についての情報交換や議論の場を目指すとしています。

フォーラム発足の反響は大きく、日刊工業新聞が早速に澤岡学長とのインタビュー記事を大きく掲載し、また社説でも取り上げました。

皆さん第35回宴祭、楽しんでいただけただけで  
 しょうか。今年は後夜祭の場所が変わって  
 心配でしたが、予想以上に盛り上がりとても  
 良かったです。また来年もこれ以上の宴  
 祭を作っていくので、皆さんもぜひ一緒  
 に楽しみましょう。



# 感動をありがとう！



美流輝移仮装行列とは、マスコットをかついで  
 栄の町を行進する企画です。クラブの皆さんに  
 参加してもらい、久屋大通公園、三越などを行  
 進しました。  
 今年も大変盛り上がりました。



美流輝移仮装行列



前夜祭

前夜祭では、食事・ジュースが無料！さらにビール・  
 日本酒が100円！ステージでは楽しいゲーム盛り沢山！  
 この前夜祭は、もう騒ぎたい放題！そうです。この前  
 夜祭こそ、まさしく宴祭なのです。

## ステージ



本祭1日目は残念ながら体育館でしたが、両日ともにカラオケ大  
 会などの多くの方が参加してくれました。また来年も多くの人が  
 見に来てくれるような良いステージを作っていきます。

## 後夜祭



後夜祭とは、宴祭の最後を締めくくる一大イベントである。  
 ピンゴ大会から始まり、ファイヤーストーム、ダンス、日舞い、  
 火文字・ランス、花火へと続いていく。僕達の宴祭に対する  
 思いの全てがこの日本一の後夜祭である。



たね



## 宴祭を終えて



大学祭実行委員会 委員長  
加藤 貴久

第35回宴祭が終わって振り返ると、色々な事がありました。中でも・・・何かと言うわけではなく、全てが思い出されます。

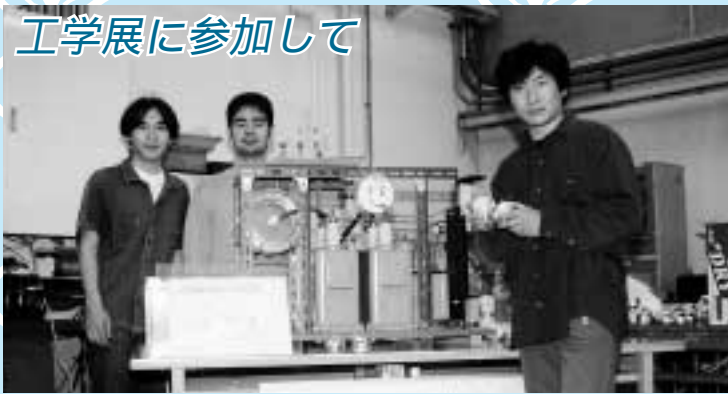
2月から合宿が始まり、パンフレットの広告を取りに行ったり、パンフレットを作ったり、色々企画を練ったりしました。

4月には1年生も入り、より一層活気が出てきました。5月に入り企画も始まり、どんどん大学祭が近づくにつれて皆の気が引き締まってきました。そして5月21日に美流輝移仮装行列が始まって、その後、後夜祭が終わるまでの1週間は一気に過ぎていきました。

私は興奮すぎて、後夜祭の最後の時のことはあまり覚えていません。一気に過ぎていった47日間でした。それも今では良い思い出となっています。この経験は将来の糧になっていくと思います。私はまだ2年生なので来年もあります、今年の経験を生かして頑張っていきたいと思います。

大学祭を行う上で、様々な方に協力、援助をしていただきました。本当にありがとうございました。

## 工学展に参加して



僕は大学祭には大同校舎の工学展で参加していました。出展していたのは研究のパネルとブリクラを作って販売していました。1日目は雨が降っていたので、人が全然来ませんでした。ただ、大学の近くに住んでいるらしい小学生の子供たちが来てくれました。2日目は晴れたので、外のテントで行っていました。昨日の雨の為に午前中は人が少なめでしたが、午後からは来てくれる人が増えました。(来てくれた人はありがとうございました。)今年、工学展で参加するまでは、こんな事をして何が楽しいのかな?とっていました。しかし、参加してみても色々な人と話をしたり、参加しているという一体感是非常に新鮮な体験でした。僕は今年で卒業ですが、ぜひ来年も来たいと思います。(学生記者)

写真を提供してくれたアルバム委員会の皆さん、大学祭実行委員会の皆さん、ご協力ありがとうございました。

(学生記者 森川・古川・菅井)

## 大学祭に感謝



僕は大学に入ってまでクラブなんて・・・とっていました。たまたまクラスの友人などと大学祭でも見て回るかという事になり、日曜日に見に来ました。ステージのイベントは見ていて楽しく、ブースにいる人の呼び込み(少し強引だった気がしますが)など活気がある大学祭だと思いました。また、一般の人達も多く歩いていて、普段の大学とはまた違った面を見た気がしました。ただ、友人と回っている中で盛り上がっているブースとかを見ると、クラブに参加しても楽しいかなという気分になりました。その後、クラブに入っている友達などに話を聞いたりして入ろうかなと思っています。こんな機会をくれた大学祭に感謝しています。また、来年も楽しみにしています。(学生記者)



## 第35回 宴祭 日程

- 4/1~5/23 大同ドライブラリー
- 5/21(日) 美流輝移仮装行列
- 5/22(月) 柴田仮装行列
- 5/23(火) ボウリング大会
- 5/24(水) 麻雀大会
- 5/25(木) 前夜祭
- 5/26(金) ソフトボール大会  
カジノホール
- 5/27(土)28(日) 本祭
- 5/28(日) 後夜祭

## 来年に向けて

大学祭実行委員会 副委員長 富田崇夫

ついに来年は21世紀を迎え、大同工業大学の新キャンパスができるというわけで大学祭も大きく変わろうとしています。まずステージや模擬店の場所などを考えることも多く、それだけ今年とは違う大学祭になっていくと思います。中間企画・本祭に限らず、今の企画プラスアルファとして新企画ができたり、また既存の企画にも変化が見られると思います。今はまだ想像上のことになってしまっていますが、来年の大学祭はあらゆる可能性が考えられます。私達大学祭実行委員会は、皆さんが来て楽しいと思えるような大学祭を目指して、日々努力していきたいです。最後に、大学祭は私たちの力だけで成功させることはできません。私たちが楽しい大学祭を作ったとしても、来てくれる人がいなくなったら成功とは言えませんし、逆に、多くの人が来てくれていても、私たちがつまらない大学祭を作ったら成功とは言えません。私達は皆さんが来なくなるような楽しい大学祭を作っていきますので、今年来られなかった方、また来てくれた方、来年もぜひ来て下さい。



# 研究室を訪ねて 10

## 野球少年が今、 ナノ・ボールを追っている

応用電子工学科 岩間三郎 教授



### 小さくなれば怖くなる

今回は、モノは微粒子状態にまで小さくなるとその性質が一変するという話である。

石炭は穏やかに燃える。この石炭をとことん砕いて目に見えないほどの粉にすると、その性質が一変する。石炭の粉すなわち炭塵はある条件下で急激な反応(爆発)を起こす。炭坑が多かった昔はしばしば炭塵爆発の悲劇が報じられた。

炭塵の一粒の大きさは大変小さく、「ナノ」という長さ単位で計られる。1ナノとは100万分の1ミリで、原子数個分のサイズである。物質がナノ粒子になった時に、その物質が通常のサイズである時とは、まるで異なる性質を示すことが、今大変注目を集めている。

性質が変わる一つの理由は、物質の内部と表面積の割合が極端に変わるところにある。例えば、石炭は表面こそ激しく燃えるが内部の反応はゆるやかなので、全体としては石炭はおだやかに燃える性質だ。ところがナノサイズになった石炭の1粒は、内部の体積に対して表面積の割合が非常に大きくなり、ほとんど粒子全体が表面だけになってしまう。物質の表面は、石炭の表面がよく燃えるように化学的に不安定で、激しい反応を起こすので、ナノ化した物質は元の物質とは大変異なる性質を示すという訳である。

さて、それでは岩間研究室を訪問しよう。

### 自慢の自家製設備でナノボールを生成

岩間研究室は大同校舎7号館の2階にある。6月の午後、岩間先生と博士課程の研究生である田仲さんが待っていた。岩間先生と田仲さんは、シリコンやシリコン酸化物などの半導体材料のナノ化に取り組んでいる。

実際にナノ粒子をどうやって作るか聞いた。大きい物を小さくしてゆくのではなく、逆に原子からナノサイズの粒子に固まらせるのだ。それには、物質を高熱(例えばシリコンだと約1500度)にして蒸発させる。蒸発した物質は原子状態になっており、これを不活性ガスの流れの中に噴き出すのだそうだ。そうすると原子状態の物質が冷やされてナノ粒子ができあがる。岩間先生はこれを、太平洋で水分を吸った空気が日本列島にぶつかると上昇して冷え、その結果水蒸気が氷の粒になって雲が発生する様子に似ている、と説明してくれた。

このナノ粒子生成装置が7号館の1階の実験室にある。すべて手製である。先ほど「ガスの流れの中に噴き出す」と書いたが、この実験室の装置には強力なポンプがついていて、台風並の猛スピードで流すことができる。この猛スピードでやるところが岩間先生独自のアイデアで、これだと効率よくナノ粒子を生成することができるそうだ。

### 夢の蛍光用材料に挑む

「先生がトライしているシリコンのナノ粒子は、一体何の役に立つのですか。」と学生記者の菅井君が聞く。「光るんです。」と岩間先生が答える。「なーんだ」という顔を見ると、これが大変なことなんだという。テレビのブラウン管や、自動車・オーディオ機器等に使われている各種のカラーディスプレイの色は、使用する半導体の特性による。

現在使用されている蛍光用材料は、地球上の限られた地域に限られた量しか存在しない稀土類元素や、あるいは有毒物質を使用する場合が多い。ところがシリコンは石や岩として地球上に無限にあり、また全く毒性がない。これが蛍光材料と

して実用化できれば、人類にとって、地球にとって、まことに幸福なことなのである。かくして日夜、岩間先生と田仲さんは物質のナノ粒子で“光りもの”づくりに励んでいるのである。

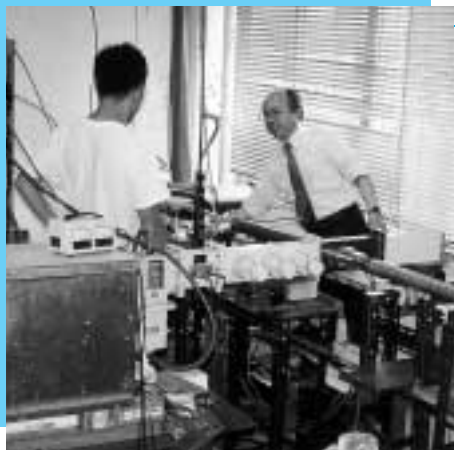
### 夢のトランジスタ素子に挑戦

先生は新たに、できたナノ粒子をいかにナノ粒子として保つのか、というテーマにも取り組んでいる。というのも、ナノ粒子は不安定な性質であり、ナノ粒子同士が集まるとすぐ固まり、大きくなってしまふからである。そこで、ナノ粒子の表面を他の物質でコーティングしてやれないかと考えている。

田仲さんによると、シリコンが光るのもその例だが、ナノ粒子には「体積効果」といって、体積が極小であることによる独特の効果があり、その一つに「単電子トンネル効果」がある。それを利用して、ナノ粒子で電子を1個だけ出し入れできる素子ができるのだという。この素子ができれば電子1個だけでトランジスタが動作できることになるので、現在のトランジスタに比べて、動作スピードはグンとアップし、エネルギー消費は小さくなるという。研究段階では、マイナス250度を越す超々低温ですすでにその動作確認の報告があるとはいえ、実用にはほど遠いとのこと。

今の岩間先生の風貌からは想像が難しいが、実は大変なスポーツマンである。田仲さんによると、ご自宅には表彰状やトロフィーが山のようにあるとのこと。小学校時代には少年野球に夢中で、名古屋市の大会で優勝した。大学時代には準硬式野球部のエースとして愛知大学リーグで鳴らし、「消える魔球」(カーブです)で最高殊勲選手に1度、ベストナインには2度選ばれているという。

プロを夢見た夜もあったかもしれない。今では、ナノボールを投げる夢でも見ておられるかもしれない。



## 横井理事長から田中理事長へ

横井信司理事長が6月末日をもって退任されました。理事長は、6年間にわたる在任中に、特に学園中期基本計画の立案と推進に尽力されました。その具体的な成果の一つが大学新キャンパスです。職員には、時代と環境の変化の重大さを説いて、新しい感覚で業務に当たること、学生のための大学であること、を指導してられました。

なお、後任の理事長には田中卓氏が7月1日付けで就任されました。

### 理事長就任にあたって 理事長 田中 卓

7月1日から、大同学園理事長として皆さんと共に歩むことになりました。大同学園は、皆さんご承知のごとく、明治の実業家福澤桃介の「技術を高め、広め、事業を興し」「社会に貢献する」と言う企業家精神を引き継ぐことを目的に開学されました。

大きな変化、ビッグバンが社会のあらゆる分野で起きてる今日、学園経営の任の重さに身の引き締まる思いです。大同工業大学は、改めて世の中にその存在を再認識させるべきスタート台に今、立ったと考えます。新キャンパスがすばらしい姿を現しつつあり、シンボルマーク、ロゴ等面目を一新させました。澤岡学長を強力なリーダーとした教育・教学の方針が明確となり、あとは実行にあたっての法人・教学・学生のエネルギーの爆発があれば、成果をものにする事ができます。この推進が私の任務であり、責任であると認識しています。

物事の判断に当たっては「前例」を重視することがあります。しかし前例にはいろいろあり、どのような前例を参考にするの

かは、私たち自身の判断です。変化の激しい現代では、昨日不可能と思えたことが今日には実現されたという事例が少なくありません。やれない言い訳でなく、実行を可能にする為の方策を、前例から見つけ出したい。

人材教育の重さ、難しさ、時間が必要なことは十分承知しておりますが、社会の変化とニーズに遅れをとることなく、種々な教育効果を大同工業大学から発信したいと思います。教育・研究や学生の諸活動にすでに頼もしい事例が見え、あらゆる面での競争にその効果が発揮できるものと確信できます。情報系学科の充実、県の私学では初の産学連携共同研究センターの設置、企業からの受託研究等の多くの実例、学長賞、三好賞の受賞学生の活躍、エネルギッシュな学園祭、クラブ活動がその好例です。大いなる手応えです。

最後に学生諸君にお願ひがあります。「学力崩壊」とのショッキングな記事、最近、新聞・雑誌でよく目にします。社会



田中 卓 (たなか たかし)  
昭和13年生まれ、名古屋大学経済学部経済学科卒  
昭和36年大同特殊鋼㈱入社。取締役経営企画部長、専務取締役、代表取締役副社長を経て平成12年7月現職就任。

環境の変化、小学校からの教育体系にも一因があるかとも考えますが、多様なこれからの人生に諸君が立ち向かって行くには学力と、学力を身につけようとする意思・生活習慣がどうしても必要です。学園を挙げて諸君の目的が達成出来るよう尽力を惜しみません。これに応えるよう、一層の努力を望みます。社会の変化とスピード化、大学のビッグバンの時代です。全力を尽くす覚悟であります。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

### 退任のご挨拶

前理事長 横井 信司

平成12年6月末日をもって、大同学園理事長を退任し、後事を田中卓新理事長に託すことになりました。在任は丁度6年になりますが、この間ご父兄から寄せられたご支援、ご鞭撻に対して心から感謝申し上げます。学生諸君との交流は職務上十分には出来ませんでした。若々しい感性に満ちた素晴らしい学生の皆さんと接点を持つことが出来ました。教育機関に勤務する特権を享受し、学生諸君のお陰で自分自身が精神的に老いかなかったことについて、学生諸

君にもお礼を申し上げます。21世紀の入口に立った日本はこれからどのような変革をたどるのでしょうか。大同学園は21世紀に対応すべく、学園中期基本計画を立案し、これの進捗に教職員が全力で奮闘中です。平成13年4月からは時代に即応した新学科もスタートします。また学生諸君のキャンパスライフを充実する目的の滝春新キャンパスも順調に工事が進行し、平成12年末には主要工事が完成し、その偉容を誇るようになります。



学生諸君は大同工業大学で自己を確立し、立派な社会人となるべく巣立って下さい。ご父兄の皆様にはかわらぬご支援をお願いしてご挨拶とします。

平成12年度学生数  
(5月1日現在)

学部

学 科	1年	2年	3年	4年	計
機 械 工 学 科	310	303	289	247	1,149
電 気 工 学 科	178	197	154	168	697
応 用 電 子 工 学 科	180	159	138	144	621
建設工学科土木工学専攻	123	94	105	106	428
建設工学科建築学専攻	135	138	129	102	504
全 学 科	926	891	815	767	3,399

大学院

修 士 課 程	1年	2年	計
機 械 工 学 専 攻	34	23	57
電 気 ・ 電 子 工 学 専 攻	17	20	37
建 設 工 学 専 攻	11	11	21
計	62	54	116
博士課程 材料・環境工学専攻			4



(教員一人当たり採択件数)

# 科学研究費補助金決まる！～私学で第17位に躍進～

平成12年度の科学研究費補助金の採択が決定しました。

科学研究費補助金は、あらゆる学問分野における優れた独創的・先駆的な学術研究を進展させることを目的とする国の研究助成費です。

本学の本年度の採択は、件数で21件、金額では38,000千円に達し、昨年度と比較すると、3件、12,200千円の増加となりました。この実績は、採択実績のあった全国の私立大学377校中、採択総額で77位(昨年度は95位)と大健闘しました。

また、採択総額の上位100校を対象に調査したところ、教員一人当たり採択金額では22位(昨年度は31位)、教員一人当たり採択件数で17位(同20位)となり、昨年度の

快挙から一層の躍進を果たしました。さらに、いわゆる理工科系大学のみで比較すると、採択総額で11位、教員一人当たり採択金額

では5位、教員一人当たり採択件数で3位となり、本学教員の研究活動の活発さを示しています。

## 教員一人当たり採択件数(私学理工科系大学)

順位	大学名	採択件数	総教員数	採択件数 総教員数
1	豊田工業大学	31	53	0.585
2	高知工科大学	27	82	0.329
3	大同工業大学	20	93	0.215
4	東京理科大学	154	749	0.206
5	金沢工業大学	49	240	0.204
6	帝京科学大学	12	70	0.171
7	大阪電気通信大学	18	121	0.149
8	工学院大学	27	207	0.130
9	芝浦工業大学	22	174	0.126
10	岡山理科大学	36	286	0.126

(注) 本学の最終的な採択件数は、新任教員の追加分を加え21件。

	研究種目	継続	所属部署	研究代表者	研究課題	交付額
1	基礎研究B 一般	継	機械工	中島 浩衛	省エネルギー・熱間加工における金属材料の組織の予測と最適制御	900,000
2	基礎研究B 一般	継	電気工	神保 睦子	磁性人工格子をベースに用いたホットエレクトロントランジスタに関する研究	2,800,000
3	基礎研究B 海外		建設工・土木	下島 栄一	西オーストラリア半乾燥地域での蒸発・降雨-塩類集積の関係に関する観測研究	5,200,000
4	基礎研究B 展開		電気工	藤田 順治	高効率マイクロ波放電プロズマによる機能性薄膜形成	8,400,000
5	基礎研究B 展開	継	建設工・土木	堀内 将人	製錬工場周辺環境中でのアンチモンの動態解析と汚染対策に関する研究	3,500,000
6	基礎研究C 一般	継	一般教養・数学	瀬川 重男	正則関数及び調和関数の境界挙動の研究	900,000
7	基礎研究C 一般		一般教養・数学	多田 俊政	開リーマン面の理想境界の研究	900,000
8	基礎研究C 一般	継	一般教養・哲学	服部 文彦	コンピュータ支援によるマキャヴェリのデータベース化	100,000
9	基礎研究C 一般		応用電子工	坂 貴	高スピン・縮極電子を用いてスピン・フィルターの基礎研究	2,400,000
10	基礎研究C 一般	継	応用電子工	堀尾 吉巳	反射高速回折電子分光法の開発と結晶表面構造・形態研究への応用	1,200,000
11	基礎研究C 一般		機械工	西堀 賢司	超音波モータを指にもつロボットハンドのPWM把持力制御	2,300,000
12	基礎研究C 一般	継	機械工	青山 正治	高強度・高靱性オーステンバ球状黒鉛鉄の耐環境材料への適用に関する研究	500,000
13	基礎研究C 一般	継	建設工・建築	五島利兵衛	フリーハンド応用工法の再現とリブウォールのルーツ解明	400,000
14	基礎研究C 一般	継	建設工・土木	下島 栄一	乾燥・半乾燥地域における地表付近での水分凝結-蒸発-塩類集積の関係	1,100,000
15	基礎研究C 一般		建設工・土木	舟渡 悦夫	紛争を伴った迷惑施設の創発的環境条件に関する実証的研究	900,000
16	基礎研究C 一般		建設工・土木	堀内 将人	堀川水質への下水処理放流水の影響評価と汚染物質の河川中動態に関する研究	1,300,000
17	奨励研究A	継	機械工	大嶋 和彦	セルフセンシング・アクチュエータによる骨組構造物のアクティブ制振	900,000
18	奨励研究A		建設工・建築	光田 恵	高齢者施設における臭気の評価・管理手法に関する研究	1,600,000
19	奨励研究A	継	建設工・建築	萩原 伸幸	緊張ケーブルを組み込んだ構造システムの動的非線形挙動に関する研究	200,000
20	奨励研究A		建設工・土木	棚橋 秀行	メンブランフィルターを用いた油水分離式カラム試験装置・保持特性試験装置の開発	2,000,000
21	萌芽的研究	継	建設工・建築	瀬尾 文彰	都市空間における詩的環境の形成手法	500,000
				合 計		38,000,000

## 材料科学技術研究所の閉所式行われる

本学に新たに産学連携共同研究センターが4月1日に設立されたことに伴い、材料科学技術研究所は3月末日をもって閉所された。この研究所は、科学技術の発展のためには新材料の開発研究とその使用法や応用加工技術などの研究が重要であるとの認識の下に、1978年(平成53年)に設立された。21年余の歴史を閉じるにあたり、これまで材研を支えてこられた歴代所長やOBを招待して、記念講演会とパーティーを4月29日に開催した。

講演会は横井理事長、澤岡学長、水野大同特殊鋼(株)技術開発研究所長はじめ43名の参加者を得て9403講義室で開催された。初代専任教授として着任された戸澤元学長は、「材研の存在は学外から高く評価され、大学院の開設や大学基準協会への加入に大いに役立った」と述べられた。また、中島副学

長は最後の材研所長として「材研の歴史を閉じるに当たって」と題して、材研が果たしてきた役割や閉所に至った経緯などについて語られた。第4代所長の鶴野元副学長は「学際的な研究には至らなかったのが心残り」と語られた。第6代所長の石川先生は、材研との関わりや大学花「三色桃」について熱弁を振るわれた。第7代所長の榭先生は「地道な研究により種を作っておけば後で役に立つ」と後輩にエールを送られた。

第10代所長の細井前副学長は次世代の研究体制について熱い期待を述べられた。最後に、第9代所長の岩間産学連携共同研究センター長からは「新たな産学連携時代の始まり」と

題して講演があった。

講演会終了後ホテルに移動し、41名の参加を得て、第3代所長の岡部先生の乾杯の挨拶でパーティーは始まった。益々お元気の材研OB、現役メンバー、来賓の方々は、思い出話やこれからの研究活動などについて大いに語り合い、楽しい時間を過ごし、記念写真を撮って散会した。  
(材料科学技術研究所元次長 小野宗憲)





私がOSU(オレゴン州立大学)へ来てから9ヶ月が経ちました。「大同工大キャンパス」第31号で昨年10月から12月までの様子を報告しましたが、今回は、その後の様子を報告します。

私は、OSUのWinter Term(冬学期:1月~3月)に、日本語学科の中島先生の依頼で、カタカナの授業を任されることになり、33名の学生に教えました。学生たちの学科や学年は様々なのですが、どの学生も日本語に興味を持っていて、OSUで日本語を勉強し始めたばかりでした。1単位を認定する授業なので、毎回出席をとって小テストをしました。授業の準備を通して、カタカナが結構難しい日本語であることが分かり、とても良い経験になりました。



カタカナ授業風景

3月24日~26日には、大同工大の小野常務理事が大成建設の今井、植松の両氏とともにOSUとUofOのキャンパス視察に来られました。24日は、OSUのキャンパス見学の後、大同工大と関係の深いCCEE(土木・建設・環境工学科)の教授方との夕食会を行いました。会場は、Corvallisで一番雰囲気の良いレストランと言われている「The Gables」で、CCEEからの参加者は、Klingeman教授、Hudspeth教授、McDougal教授の3名でした。また、通訳として中島先生にも参加していただきました。OSUのCCEEと大同工大の建設工学科土木工学専攻との国際交

流は歴史が古く、今後の交流をもっと活発に行うにはどうしたらよいかを話し合いました。その会話の中で、Hudspeth教授から、TOEFLで550点程度の英語の能力さえあれば、大同工大から学生を受け入れても良いという意見が出されました。

25日の午前中はUofO(オレゴン大学)へ行き、International Education and ExchangeのThomas Mills博士とAmerican English InstituteのPeggy Dameさんに会いました。UofOの概要説明を受けた後、Peggyさんがキャンパスを案内して下さいました。その後、Willamette川の畔にある「Valley River Inn」というホテルの中のレストランで昼食会を行いました。この席で、UofOと大同工大との国際交流が益々活発になることを両大学が期待していることを確認しました。

25日の夜は、UofOとOSUに留学している大同工大のOB、OG、在学生と小野常務理事との懇親会を行いました。会場は、Eugeneの日本料理店「四季」で、学生の参加者は、OSUから久野正裕君(92M083)と松尾奈々さん(94M195)、UofOから毛受重人君(\*\*M\*\*)と松浦由佳さん(98A\*\*)でした。OSUとUofOで勉強している学生の皆さんは、とても積極的に力強さを感じます。

4月21日は、CCEEの学科長であるHuber教授のお宅での夕食会に、東京大学から来ておられた環境工学が専門の古米先生と一緒に招待されました。この夕食会には、学科事務長のJanetさんにご主人のAlvin助教授も招待されていました。Alvin助教授は農学部穀物科学科の所属です。この日は、オレゴンの美味しいワインを飲んで会話も弾みました。

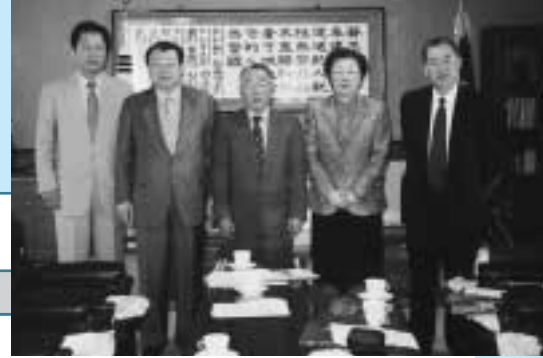
5月19日~21日は、農学部の穀物科学科の授業でAlvinさんが企画されたオレゴン州中西部の現場見学同行

させてもらいました。乾燥地帯での灌漑農業の見学が主目的でしたが、まず、オレゴン州の広大さに圧倒されました。カスケード山脈を横切るときには、松の原生林の下にまだ雪が残っていましたが、さらに東に向かうと、砂漠に近い広大な荒野が広がっていました。一つの州でさえこれだけ広いのですから、アメリカ大陸の大きさは想像を絶します。乾燥地帯の農業では、約150mの深井戸から汲み上げた地下水を有効に利用していました。中性子水分計で土壌水分量をモニタリングしながら、スプリンクラーによる最適な灌漑水量を決定していることを聞いたり、GPSを使ってトラクターやコンバインなどの位置を確認して、作物の生育状態がGIS上で整理されているのを見ると、最新の工業技術が農業に適用されているのがよく分かりました。3日間のバス走行距離は917miles(約1470km)で、夜は農家の小屋に泊めてもらい寝袋で寝るとい、かなりハードな現場見学でしたが、大変貴重な体験をしました。

私は、OSUに7月末まで滞在し、8月にはヨーロッパに渡ります。8月と9月のヨーロッパ研修の様子は、次の機会に報告します。



OSUでの夕食会



(写真左から) 東亜大学教授 張東西学園理事長  
事口副学長 朴東西大学総長 小野常務理事

本年、どういうめぐり合わせかわからぬが、米国と韓国の2カ国を訪問する機会を得た。米国訪問は以前から一度は提携校であるオレゴン大、オレゴン州立大を訪問し、これからの本学との今後の提携のあり方を探る意味もあり、多少義務感もあって行ってきたが、韓国については正に降って湧いたような話して、忙中閑あり状態で行って来た。

結論から云えば、今回両国の訪問は学園経営者という立場からしても、私自身に取っても大いに有意義であったと考えている。

先ず米国であるが、久々の訪問であったが各都市の雰囲気はまるで違っていた。10年前も活況であったが、今回はそれ以上の感がした。人々の顔が自信に満ち、現在の米国の好景気をそのまま写しだしているようにも思えた。特に全般的に街が綺麗になり、治安もよくなっているようであった。

以前10数時間をかけて行き、スケジュールもハードであった為、体調をくずした事もあって「早く行って提携校を自分の目で見て、今後のありようについて方針を出すべし」との部下の進言に生返事ばかりしてきた私であったが、今回は何か追い立てられるような気分で出国した。行けば悪いくせが出て、あっちもこっちも見たいという事になり、何と3/18(土)~3/26(日)迄の間にニューヨークからオレゴン迄の移動時間を含め12校の大学を訪問した。大変ショックを受けたことは、想像以上に各大学共にコンピューター化がすすんでいるという事であった。学生の集まる場所、通り道



オレゴン大学新校舎

には必ずと云って良い程パソコンが置いてあり、自由に使える環境が用意されている事である。という事はデータベースがちゃんと機能している事にもつながる。米国のIT革命がすすんでいる証左のように思えた。但し教室内の机・椅子といったものは日本の大学の方がはるかに良い物が備えてあると感じた。

提携校への訪問はスケジュールの関係もあり、(金)(土)の2日間となった。土日曜日が休みという事もあって充分細かい所迄見られなかったが、留学中の大東助教授、松尾さん、卒業生でさらに勉強中の久野君、毛受君等の心暖まる準備のお陰で、先方の関係者との交流は充分出来、今後の提携方法について光明も見えたと考えている。

韓国訪問は事口副学長と4/26(水)~4/29(土)の間に3大学を訪問した。たまたま、昨年5月の大学祭の際に、客員教授であった東亜大学呉教授と本学舟渡教授、嶋田講師の案内で東西学園(東西大学・慶南情報大学)理事長の張先生が突然と本学を訪問した事にさかのぼる。

澤岡学長・小職他本学関係者と昼食懇談をし、交流を深めたところ、昨年末に慶南情報大学の日本視察団が再度本学を訪問し、その際の横井理事長・岩間社会交流センター長(当時)他の手厚い歓迎を大変喜ばれ、「是非、本学との交流を深めたい、については是非とも責任者の訪韓を願いたい」との招聘状が2回に亘り届いたことがそもそもの始まりである。

当初は大変忙しかったこともあり辞退したが、再度の招聘に心よく応じることを決定し、これ以上ほっておくわけにもいかず、理事長・学長の代理という事で、小職と事口副学長が訪韓することになった次第である。場所は釜山、以前ソウルに行った事があるが、改めて韓国は近いと感じた。何と1.5Hで到着である。北海道へ行くより近い。釜山は“釜山港へ帰れ”の歌でも知られているとおり、港であるが旧軍港と

いう事もあり、規模は名古屋港より大きく又港にすぐせまる山々に向かって町全体が発展しており、立ち並ぶアパート群にはその壮観さに圧倒される。訪問した3大学共、山の急斜面を開発し建設されているが、設備的には本学は到底打ち出せない規模と内容であった。学生数も2~4倍であり学内は極めて綺麗、ゴミ・タバコの吸い殻等は落ちていないし、通りすがりの学生は必ず会釈をする。先方の理事長・学長が先頭に立ち我々を案内してくれたが、各部屋に入ると全員が起立し礼をする。先ずその来客をもてなす礼儀正しさに大いに感心すると共に、このままだと日本は負けるなど感じたのは大学全体のコンピューター化である。米国同様に、韓国のIT化に対する取り組みは正に教育の現場からスタートをしており、日本も余程正根をすえて取り組まないとおいてけぼりをくうと感じた次第である。

これ迄現在建設中の大学新キャンパスのIT化に対し、従来比1.5倍程の投資をしたので、なんとかしばらくは大丈夫と思っていたが、米国・韓国を訪問しこれでは全くたりない、本学の今後のあり様を考える際に再度見直しを図る必要があると痛感した。井の中の蛙は恐ろしいことである。特に今の時代には日本だけに目を向けているのではなく、時には外国へも行き、種々比較する事が必要である事を今回の両国訪問は教えてくれた。

韓国との交流はこれから詰めるべき課題が沢山ある。南北の劇的な対話にも見られるように、これからの東南アジア全体の交流は益々深まり発展していく事であろう。米国・欧州東南アジア諸国の各大学との連携を少なからずすすめることが、本学学生のこれからの国際化対応に大いに役立つはずである。どうすれば国際交流が活発に出来るか、真剣に再考する時期に来ていると思うし、実現に向けて努力していきたいと考えている。

## 国際学会に参加して

97D 新藤雅子さん

今回、私は12日間海外に行く機会に恵まれました。この旅の目的は、学会で2つの発表の手伝いをするというものです。私は今までに海外に出かけたことはなく、今回が生まれて初めての海外ということと、まだ数える程度しか参加していない学会ということもあり、とても緊張した旅となりました。約1日に渡る飛行機内での生活や乗り継ぎなども未知のものでしたが、一緒に行った先生方に聞ながらなんとか過ごすことが出来ました。学会の開催地であるギリシャのサントリー二島には夜になってから着きました。宿泊するホテルまでは空港から用意されたバスで移動しましたが、ホテルに到着すると何もできないくらいに疲れていました。サントリー二島は、火山が噴火してできた島なのでどこを歩いても坂道ばかりでした。学会の開催された会場は非常に高い所にあったので、そこからきれいな海を見下ろすことができ、とてもきれいなリゾート地といった感じでした。



私は学会では2人の先生方の発表の時に使われる、OHPの交換という役割を与えられました。初日は、水野教授の「不安定な盤上での姿勢調節」で、この実験は、現在水野研究室での卒業研究テーマでもあります。2日目は時々輪教授(愛知県立看護大学)の「内リンパ液はクブラ基底部を通過するのか?」というもので、この研究では私が2年前から参加させていただいています。この実験では、実際にハトの頭部を切開し、観察しようとする膨大部を露出させる手術を主に担当しています。そしてこの学会ではOHPの交換の役割を与えられ、OHPの順番が間違いないように気をつけたり、先生方の英語での発表や質疑応答をわからないながらも聞き取るように頑張ったりで、とても疲れました。でも国内での学会とは違って、海外の専

門分野の著名な研究者が次から次へと質問や意見を言ってくる激しいものでした。その雰囲気は、研究をして発表をするということの難しさを実感させられるものでした。

私が参加した学会(シンポジウム)は「Humans in Space」という名前宇宙と関連しているためか、日本の女性宇宙飛行士である向井さんや、アメリカの宇宙飛行士のジョン・アレン氏も参加して1時間程いろいろな話をする機会がありました。また、空港で初めて会った女性の研究者に、渡邊客員教授(大同産業医学研究所所長)のお友達ですが、握手をしたときに「Big Chance」と言われました。私自身海外での学会発表に参加し、その場の雰囲気を感じることができたり、著名な方々に出会うことができとても感激しています。学会前の1~2ヶ月は、データの整理やコンピュータを使っての実験結果の取り込みなど、帰宅が夜中になることが何度もありました。でも医学分野の研究に工学部の、しかも学部生の私が参加し、実際に活動でき、自分がやりたかったことに近いことができていると思うととてもうれしく、もっと頑張らなくてははいけないと思います。自分のやる気と頑張り次第では、どんなことでも不可能なことはないと思えるようになりました。これから私が進んでいきたいと思う方向は、今まで以上に大変なことばかりだと思いますが、今回の学会での様々な体験をこれからの自分に生かしていけたらと思います。そして何事もあきらめず、やれることはやってみようという気持ちを忘れずに、研究もそれに伴う勉強も頑張っていきたいです。本当にすばらしい、貴重な経験をさせていただき先生方に感謝しています。ありがとうございました。

水野教授、  
宇宙飛行士 ジョン・アレン氏と



## 新刊著書を語る

ENVIRONMENTAL  
RADIOCHEMICAL ANALYSIS

B 5版 406ページ

著者：化学教室 大下一政、酒井陽一 他

出版社：The Royal Society of Chemistry

発行日：1999



大下一政教授



酒井陽一教授



1998年9月、イギリス・ブラックプールでの環境放射化学分析の国際会議で発表された40件の研究をまとめたものである。40件は大きく2つに分類される。ひとつは環境中の放射性物質の化学的挙動・影響を研究し、もう一方は非放射性物質の環境問題を放射化学的手法により検討している。筆者らの担当部分(第40章：Concentration and Oxidation States of Iron Related to Sediment-Water Interaction in Lake Biwa, Japan 琵琶湖の堆積物-湖水相互作用にかかわる鉄の濃度と酸化状態)は後者の範疇であり、愛知医科大学、四日市大学、本学、名古屋大学、琵琶湖研究所、金沢大学の研究者の共同成果である。我々大同工大グループはメスbauer分光による試料中の鉄の酸化状態分析を担当した。まとめ役であった愛知医大・核医学センターの小島貞博博士は、4月発足した産学連携共同センター(CRC)メスbauer分光ラボラトリーの学外メンバーでもある。

20世紀建築の空間 空間計画学入門

A 5版 285ページ

著者：建設工学科建築学専攻教授  
瀬尾文彰

出版社：彰国社

発行日：2000.5.10



建築の本質は空間にあると云われます。その場合の空間は、スケールで測れるような物理的な空間とは違います。人間の心だけが感じとれる特別な質のことです。建築をつくることは、モノを作るようにしていいのでない。モノによって囲まれたり、区切られたりする、何もない部分、その部分の特別な質、つまり空間をつくるためにこそモノを作る。と、まあ、こういう分かりにくい話を学生諸君に分かってもらうには、どうしても教科書が要る。しかし世の中には、それに都合のよい本がないので、自分で書かざるをえなくて書きました。書いてみると、いままでこの種の本が無かったこともあって、一般にも評判がよいようで、うちの学生にも読ませたいとか、うちでも教科書に使いたい、などと言ってくれるよその大学の先生も少なくありません。



## スウェーデンと私

一般教養(人文社会教室)講師  
渡辺博明

私が中学生のころ、「アバ」というグループの音楽がはやっており、それ以来彼らの出身国であるスウェーデンが何となく気になるようになっていました。大学生になり、スウェーデンは社会保障が非常に発達した国だということを知ると、政治学を専攻し始めていた私の関心は一気に高まりました。その後、大学院に進学してスウェーデン政治の研究を始め、今にいたっています。ここ数年は毎年十日から一ヶ月ほどストックホルムのインゲマルおじさんのアパートに間借りし、自炊しながら資料集めをしています。おかげで「私のスウェーデンの父」とインゲマルや彼の友人たちとの付き合いを通じて、スウェーデン人の日常生活に触れる機会に恵まれています。ここでは研究の話はさておき、スウェーデン人の生活やものの考え方などについて、私が感じていることを少し紹介してみたいと思います。

スウェーデンは小国ながら、自動車や精密機械、電気機器などの生産で知られる技術立国です。ボルボやサーブの自動車は有名ですし、近年では世界に先駆けて携帯電話の普及が見られた国でもあります。一人当たりのGDPも世界のトップ

水準です。しかしながら彼らの考える「豊かさ」は、私たち日本人のそれとは少し異なり、何よりも「のんびり、ゆったり暮らす」ということのようなのです。法定の有給休暇は5週間(!)もあります。

スウェーデン人は自然の中で遊ぶことを好みます。夏は泳いだり、釣りをしたり、秋はキノコ狩り、冬はクロスカントリー・スキーという具合です。もちろん個人差はあるでしょうが、スウェーデン人のアウトドア好きはかなりのものです。自然を共有し、楽しむという価値観は、彼らの生活の中にしっかりと根づいています。スウェーデンには、泳いだり、釣りをしたり、キノコ狩りをするためならば他人の土地に入ってもよい、という法律があるくらいです。

インゲマルも湖のほとりに小さな「小屋」を持っており、夏になるとたびたび出かけていって、泳いだり、バーベキューを楽しんでいます。インゲマルの友人で私にスウェーデンの家庭料理をご馳走してくれるアンの一家は大きなヨットを持っています。でも彼らが特別にお金持ちだというわけではありません。

スウェーデン人は精神的なゆとりや家族と過ごす時間を大切にする一方で、外見にはあまり気を遣わず、お金もかけないようです。かつてある知り合いのスウェーデン人は、名古屋駅に降り立って、行き交う若い女性が皆パーティーに出かけるみたいにきれいに着飾っている、と驚いていました。ストックホルムの街中では、自動車も「走ればよい」という感じで、傷だらけでもお構いなしです。

ところでしばしばスウェーデンについて、「国民が社会保障に頼りすぎて怠けている」とか「税金が高すぎて働く意欲を無くし



インゲマルと私

ている」などと言われることがありますが、それは誤解です。高い税金を納める代わりに、医療、福祉、教育などの社会的サービスが極めて安く利用できるというだけのことです。スウェーデンの福祉国家は、個人の自立を前提とし、それぞれの人が自分で生きていけるような仕組みとして作り上げられてきたのです(全部がうまくいっているわけではありません)。

スウェーデンの人々は独立心が旺盛です。大学生になるとたいてい経済的にも自立して、親元から離れて生活します。高校卒業後、直接大学に行けない場合には、しばらく働いてから大学に入ります。ですから三十歳代の大学生も珍しくありません。また、子供の頃から社会に対して自分なりの考えを持つよう求められ、政治教育もずいぶん早くから始まります。たとえば選挙になると、小学生にも各党の主張を整理させ、考えさせます。スウェーデンの人はよく自分の政治的立場を明らかにし、当たり前政治の話をして

私はスウェーデンの社会に興味を持ち、その政治について研究してきました。私たちが自らの社会のあり方を問い直すとする際には、外国と比較することが有効な方法の一つになります。スウェーデンのやり方がすべて正しいとは思いませんが、私にとっては、アメリカ、イギリス、ドイツといったよく知られた大国ではなく、この北欧の小国こそがたくさんのヒントを与えてくれるように思えるのです。これからも私とスウェーデンとの付き合いは続きそうです。



ストックホルムのど真ん中、運河でこんな鱒が釣れます。国会議事堂の横の

## ハンドボール部、 東海学生春季リーグに鮮烈デビュー

4月16日名古屋市体育館で開催した東海学生4部リーグ(6チーム)戦で、4月に創部したばかりの工学部ハンドボールチームが、圧倒的な強さを見せて、見事優勝を果たしました。特に開幕戦ではリーグに鮮烈な印象を与え、新聞にも「大同工大55点デビュー」と大々的に報道されました。引き続き5月20日の3部との入替戦においても、三重大(3部7位)に圧勝し、堂々と昇格を決めました。

このリーグ戦において、00M板垣貴幸君が優秀選手に、00C松本英治君が得点王(63点)の栄誉に輝きました。

主将の板垣君は「秋も優勝して、2部昇格を目指す」と自信たっぷり。愛知県はハンドボールの盛んな地域であり、大学リーグでは現在、名城大、中部大、中京大の3強時代を築いています。この中に割って入れる日も間もなくでしょう。



### 春季リーグの結果

第1回戦	大同工大	55 - 1	皇學館大学
第2回戦	大同工大	39 - 4	愛知医科大学
第3回戦	大同工大	34 - 6	常葉学園大学
第4回戦	大同工大	43 - 12	岐阜聖徳学園大学
第5回戦	大同工大	40 - 15	東海大学(海洋学部)
入替戦	大同工大	37 - 13	三重大

## クラブ活動報告

### バドミントン部

4 / 3 ~ 21  
第91回大学第48回  
東海学生バドミントン選手権大会  
団体3部 5位  
97E 荒井輝也 シングルス 5回戦  
ベスト32

### バスケットボール部

4 / 22 ~ 23  
第38回東海学生バスケットボールトーナメント  
大同工大 59 - 99 名古屋商科大学

### 硬式野球部

4 / ~ 5 / 23  
愛知大学野球春季リーグ(3部)  
大同工大 2 - 0 名古屋外国語大学  
大同工大 1 - 2 南山大学  
大同工大 2 - 1 淑徳大学

### 自動車部

5 / 14  
el sport ジムカーナ第2戦  
97C 岡森貴史 CD 1位  
97M 河野大作 CD 2位  
97M 高松明日香 CL 8位  
6 / 11  
全中部学生ダートトライアル選手権  
97M 宮脇・98M 松永・97M 長屋 団体2位

### 空手道

5 / 21 平成12年度  
春季東海地区大学空手道選手権大会  
97E 山崎貴史 個人組手 3回戦

97E 山崎貴史 型 5位  
98C 森田友章 型 5位

### 剣道部

5 / 21  
第47回東海学生剣道選手権  
97M 大村晃太 2回戦  
99M 日比隆太郎 2回戦  
99A 寺島正明 2回戦

### ワンダーフォーゲル部

6 / 4  
丹沢ボッカ駅伝競走大会  
団体 34位

### 漕艇部

6 / 9 ~ 11  
第45回中日本レガッタ  
青年男子舵手付きフォア 準決勝4位

### バレーボール部

5 / 3 ~ 7  
東海バレーボール春季リーグ  
2部 3位  
大同工大 0 - 2 愛知教育大学  
大同工大 2 - 0 中部大学  
大同工大 2 - 0 南山大学  
大同工大 1 - 2 名古屋大学  
大同工大 2 - 0 愛知工業大学

6 / 10 ~ 11  
東海大学男女バレーボール選手権大会  
1回戦 大同工大 2 - 1 名古屋大学  
2回戦 大同工大 2 - 0 中京大学B  
3回戦 大同工大 1 - 2 朝日大学A  
6 / 22 ~ 23  
西日本バレーボール大学男子選手権大会  
グループ戦  
大同工大 1 - 3 佛光大学  
大同工大 3 - 0 大阪教育大学

トーナメント戦  
大同工大 1 - 3 京都産業大学

### クリーンキャンパス

● 快適なキャンパスとは、  
ゴミを捨てなければ快適。

## キャンパスカレンダー

### 7月

24日(月) 前期定期試験期間  
(8月4日まで)

### 8月

5日(土) 夏季休業(9月18日まで)  
7日(月) 前期追試験期間(11日まで)  
アメリカ短期留学期間  
(9月6日まで)  
初級シスアド試験対策講座期間  
(29日まで)  
9日(水) 公務員試験対策講座「前期」  
(29日まで)  
21日(月) 前期集中講義(25日まで)  
28日(月) リーダースキャン(30日まで)  
30日(水) 第2種情報処理技術試験対策講座  
期間(9月18日まで)

### 9月

4日(月) 試験結果通知書「配布」  
異議申請受付期間(5日まで)  
11日(月) 学修指導期間(14日まで)  
19日(火) 履修ガイダンス(22日まで)  
25日(月) 後期授業開始

### 10月

2日(月) 履修申請確認表「配布」  
(3日まで)



我々硬式野球部は現在愛知大学野球連盟3部リーグに所属しており選手29人、マネージャー3人の計32名で活動しています。昨春の大会では、3部リーグ優勝ならびに入替戦を賭けた、南山大学戦に延長12回の未敗れ、部員全員非常に悔しい思いをしました。そのため、今季こそ2部昇格を目指し、一丸となって頑張ろうと思っています。

チームは、4割を超える打者を5人も揃えた打撃のチームで、中でも4番打者の葛谷は、5割打者で、リーグ首位打者に輝くほどです。しかし、投手力には、不安を抱えているため、投手経験のある方は大歓迎です。

また野球部では、勝つだけでなく、先輩への礼儀など社会に出ても困らないような教育もしていきたいと思っています。また、先輩後輩の関係がよく、テストや、就職の情報を教えたりもしています。その結果、留年生が一人もいません。これは、上下関係の良さを証明していると思います。

このように我々は、あらゆる方面に良い活動を行っています。また、部員も募集していますので、経験、未経験にかかわらず、気軽に見に来て下さい。



## 新キャンパス紹介

### ～ ゴビーズホール ～ 美と機能的教育空間の調和

新キャンパスの中庭に、丸く異国情風の屋根を銀色に燦然と輝かせているのがゴビーズホールである。日本の大学のキャンパスにこういう建物は、まずないのではないか。本学の特徴ある建物といえる。なお、建物の愛称は、同窓会のシンボルである「ゴビー」から来ている。

#### フィレンツェの大聖堂

この建物の特徴はなんといってもドームにある。15～16世紀にルネッサンスの華を咲かせたイタリア・フィレンツェのシンボルとなっているサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂のドームを、規模を縮小して模したものである。建物の壁の上に、「リブ」と言われる木製の12本のアーチが等間隔に先端に向かって伸びており、そのリブとリブの間に屋根材を張ってドームが出来ている。

空に向かって伸びるドームは、垂直方向への意志を表現している。

#### 内部は巨大な空間

ドームの内側は空洞である。天井は張っていない。だから一番下のフロアからドームの最高部までは、約17メートルになり、講義室の上部には巨大な空間がひろがる。この中に一人だけいると、何やら哲学的な心境にもなりそうだ。

この巨大な空間は技術的に難しい問題をもたらす。空調における温度分布をどう適正にするのか。また、ドーム内側の丸い空間は、パラボラ・アンテナのように音を一カ所に集中させる働きがあるので、それを防ぐ必要がある。これらの問題に対してはシミュレーションで対策を検討したそうだ。

#### フル装備の大型階段講義室

巨大な空間は300人を収容できる大講義室である。教壇に対して横15列の机と椅子が階段状に並び、階段状の傾斜はかなりキツイ斜度で、前列の人の頭が視界を遮ることはない。300人

という多人数でありながら、講師と受講者の視覚的距離は近い。

視聴覚装置もフル装備される。映像投影装置の「高輝度高精細液晶プロジェクター」が目玉だが、他にもビデオデッキ、DVDプレーヤー、スライドをビデオプロジェクターから投影する「スライドコンバーター」、資料を高精細度で投影する装置などが設置される。画面として200インチ(縦3m、横4m)の大型スクリーンが教壇背後に下りてくる。いずれの装置も講師が手元の操作テーブルで操作できる。音響的にもすばらしい。メイン2個、サブ4個のスピーカーが設置され、デジタル・オーディオ・プロセッサで音質・音場の調整ができる。なお、当然ながら、講義室の横壁には吸音ボードが張られている。

講義室の前方、演壇のあるところは、ちょっとしたスペースになっており、音楽の演奏などでもできる。また、その後方はブラインドを上げれば、全面が透明ガラスになっており、外の通路から内部を見ることがもできる。

#### 1階は明るいカフェ

講義室の下は、軽食・喫茶を楽しめるカフェである。全面ガラス張りのドア・窓の向こうに広がる緑の中庭を眺めて、談笑するには恰好の場所になる。寒さの厳しい冬以外はガラスドアの外にテーブルを出してカフェテラスにすることもできる。このカフェは、講義棟1階の学生食堂や売店とも隣接しており、全体として厚生ゾーンを形成している。

ポスターなどでなじみになったキャンパスの完成予想図ではドームの色は濃いグリーンになっている。しかし、実際に検討した結果、酸性雨に強い材質ということで、モネル400(ニッケルと銅の合金)を使うことになった。



ゴビーズホール外観 300人講義室

この材料の特徴は、強度、溶接性、耐食性、高温から低温までの靱性などに優れており、半世紀は痛まないという丈夫な材料とのことだ。今は銀色であるが、時間の経過とともに渋い色調を帯びてくるとのことである。その時には、また今とは違った雰囲気を感じてくれることだろう。

(財務部管財室)

### 工事だより

講義棟は6月中旬に、その全容を現しました。7・8月に内装工事を行い、講義棟とゴビーズホールの竣工式を9月13日に行います。この2棟は後期授業から使用開始になります。

本部棟は夏休みに入る頃には最上階の14階まで躯体ができ上がっているはずですが、3階建ての大型実験棟も躯体工事は完成に近づいています。

緑化計画ができ上がりました。本部棟の東横には、シンボル・ツリーとして楠の巨木が植えられることになりました。その他にも各建物の周囲に高低の樹木が植えられ、講義棟北のゲート付近には色とりどりの草花が植えられます。中庭は芝生になり、その中に通路を通ります。

## 情報処理センター

情報処理センター 新装オープン！

後期の授業開始までに次の3事業が完成し、情報処理センターが大変貌します！

情報処理センターを新講義棟3Fに移転  
情報処理センターのシステムを最新型に更新、パソコン増設（302 475台）  
高速ネットワークに再構築

新システムと新ネットワークの内容、および利用ルールの詳細は次号で紹介する予定です。本号では、「大変貌」の主なポイントを紹介し

### 変貌 - その1

4 演習室と1 マルチメディア教室、合わせて5 教室になります。CADソフトも搭載してCAD授業が可能になり、現在（情報処理センター3 演習室と機械工学科CAD教室）より1 演習室増加します。さらに、教室面積は広く、

ゆったりとした快適な演習室に変貌します。

### 変貌 - その2

演習室以外のオープン利用パソコン台数が44台から140台に約3 倍増します。教室並み広さの新オープン室には5 3台のパソコンを設置します。現在の白水演習室は主目的をオープン利用に変更し、パソコン利用のために白水校舎から新講義棟へ移動しなくてもよいようにします。また、この教室には授業用設備も設置され、オープン利用と授業の弾力的な運用も可能です。サテライトとしては、図書館と学生ホール（本部棟2F：平成13年1月以降）に各10台設置されるので、これも大いに活用して下さい。

### 変貌 - その3

学生のネットワーク利用がほぼ全面的に開

放されます。学外から電話回線もしくはインターネット経由で、キャンパスネットワークに接続できます。また、学外向けホームページが開設できるようになります。

### 変貌 - その4

現在のネットワークは幹線の通信速度が10 Mbpsです。これをトラフィックの集中する幹線を1 Gbpsに高速化し、各端末へは100 Mbpsの通信速度で接続します。今後は学内ネットワークを利用し、画像などの大量データ通信が増加すると予測されます。これに十分対応できる通信基盤が整うこととなります。

なお、新システムの使用講習会を9月11～22日に実施する予定です。開催計画を別途掲示しますので、是非参加して下さい！

(情報処理センター)

## 後援会だより

### 定期総会を恒例開催

平成12年度の後援会定期総会および教育懇談会が、4月30日(日)に名古屋市内のホテルで開催されました。学長・副学長をはじめ大学の役職者をお迎えし、今年度の活動内容等について審議・決定を行いました。その中では、建設が着々と進んでいる大学新キャンパスの様子を映像で披露したり、学生生活の現状などについて説明を行いました。その後は個人面談に入り、学生の父母と大学教員による真剣な応答で、会場は熱気にあふれました。

当日は約300名の参加者があり大変な盛り上がりを見せた1日でした。



### 夏休み後は、ぜひ教育懇談会にご出席を！

志願者数の減少や、依然として厳しさを増す就職戦線など、私学を取り巻く環境は厳しさを増していますが、大同工業大学は教職員が一丸となって新世紀にふさわしい大学作りに取り組んでいます。これらは新年からスタートする新キャンパスや新学科の設置、大幅なカリキュラム改革などに大きく現れています。大学に対する後援会の役割もまた、これまでに以上に必要不可欠なものとなってきています。

こうした大学の現状を知ると同時に、学生個々の学修生活の実態（勉学は順調に進んでいるのか、就職活動をいかに進めていけばよいのか等）を知るのに、教育懇談会はまたとない機会となっています。当日は大学の状況説明の他、大学教員との個人面談が主な内容となっています。各地での開催日程は次のとおりとなっていますので、ぜひお出かけ下さい。

(庶務室)

### <平成12年度教育懇談会日程表>

月日	曜	時間	地区	会場名	
9.23	土	10:30～15:00	四国	琴平グランドホテル桜の抄	(香川)
9.24	日	10:30～15:00	中国	ホテルグランヴィア広島	(広島)
9.24	日	10:30～15:00	静岡	ホテルアソシア静岡ターミナル	(静岡)
9.24	日	10:30～15:00	近畿	大阪第一ホテル	(大阪)
9.30	土	10:30～15:00	長野	ホテルブエナビスタ	(松本)
10. 1	日	10:30～15:00	静岡	グランドホテル浜松	(浜松)
10. 1	日	10:30～15:00	岐阜	岐阜キャッスルホテル	(岐阜)
10.14	土	10:30～15:00	北陸	ホリデイン金沢	(金沢)
10.14	土	10:30～15:00	愛知	ホテル日航豊橋	(豊橋)
10.21	土	10:30～15:00	三重	ホテルサンルート津	(津)
10.29	日	10:00～14:30	愛知	名古屋観光ホテル	(名古屋)

## 同窓会だより

皆さんこんにちは。5月20日、同窓会活動のメイン行事である総会が、名古屋観光ホテルにて開催されました。総会に先立ち支部長会（全国10支部）が開催され、各支部長の他、支部会で活躍されている会員の皆さんにも出席して頂き、各支部の運営方法や悩みについての意見、貴重な提案をいただきました。同窓会活動や支部活動の活性化を図るためには、その一つとして「卒業生と在学生の交流」を活発にしていけることが重要であるとのことでした。このヒントを基に、同窓会活動の情

報を在学生の皆さんに広く提供し、更に物心両面から支援しながら交流を深めていきたいと考えています。在学生の

皆さんから、同窓会活動についてのご意見、要望をお待ちしていますので同窓会事務局までご一報下さい。



(大同工業大学同窓会)



5.29 日本宇宙少年団「水ロケット教室」  
大同工大元浜グランドにて

### 編集後記

前号で、学生記者募集したところ、99M古川喜一君、99M菅井祐貴君、院生の99EM森川剛平君らが応募してくれました。初仕事は、大学祭の記事に大学祭実行委員会、アルバム委員会の皆さんと協力して編集、キャンパスライフ記事原稿作成に土、日曜日返上して頑張ってくれました。今後の活躍に期待して下さい。